

I 単元名

<授業の見どころ>

なかよくなるうね  
～わたしのちいさなおともだち～

子どもたちがアカハライモリを飼育  
する中で、環境を選択・活用しながら  
自らの思いや願いを実現していく。

II 単元の指導構想

1 単元について

- 子どもたちは、植物の栽培の学習に積極的に取り組んでいる。4月下旬から継続してお世話をしているアサガオへ愛着をもって関わっている。お世話を通して、種から芽が出て、たくさんの葉をつけ、花を咲かせるという変化を目の当たりにし、植物も少しずつ成長しているということに気付いている。しかし、その一方で生き物の飼育経験が乏しく、幼児教育においては、ほとんどの子どもが昆虫などのお世話をしたことがないということが分かった。家で飼っているという子どもも、保護者や兄弟がお世話をしているという場合が多く、自分たちで生き物のすみかを整えたり、餌をあげたりして継続的にお世話をする経験は十分でない。そのため、生き物には適切な育成環境があるということや、生命をもって精一杯生きているという認識はできていないと思われる。そこで、本単元では、日本の固有種であるアカハライモリに目を向けさせ、飼育する活動を通して、イモリも人間と同じように成長し、生きているという生命の尊さや、生き物の素晴らしさに気付かせるとともに、思いや願いを自らの方法で実現していく過程を通して、問題解決の能力を身に付けさせていきたい。
- 本単元は、学習指導要領(6)「動植物の飼育・栽培」を受けて設定した単元である。これまで子どもたちは植物の栽培をする学習をしてきている。一粒の種から芽が出て、たくさんの葉をつけたり、きれいな花を咲かせたりすることを目の当たりにし、生命の成長を実感してきた。本単元では、イモリの飼育を行うことを通して、そのすみかや食べ物などの生き物独自の生育環境に目を向けさせるとともに、愛着をもって生き物に関わることができるようにする。子どもたちは、お世話を通して、生き物の特徴や魅力に気付くだろう。初めはイモリに触ることができなかった子どもも、継続してお世話を行っていく中で、少しずつ関わるようになる。これらの自分と生き物との関わりをカードに記入し、ポートフォリオとして蓄積していくことで、生き物の成長や様子の変化に気付くことができるだけでなく、自らの成長の変化に気付かせるようにしていく。
- 指導に当たっては、次の2点に留意する。

1点目は、**子どもが自らの思いや願いを実現させていく複線型の授業展開【手立て1】**である。この複線としては、単元を通しての複線と、単位時間あたりの複線がある。単元としては、イモリとの関わらせ方を、生き物が得意な子と苦手な子で分けて展開していく。生き物が苦手な子は、少しずつ触ったり餌をあげたりしながら関わるようにしていく。単位時間における複線としては、一人一人あるいはグループごとに、自分たちが今やるべきことは何かを考えながら、お世話の仕方について調べたり、考えたり、行動したりすることができるようにする。自分と対象(生き物)との関わりにおいて、思いや願いを実現していくにはどんな学習活動を行えばよいのかを選択しながら学習できるようにしていく。

全校研究とのかかわり「つなぐ・えらぶ」

2点目は、**問題を解決するための思考を促す環境構成の工夫【手立て2】**である。以下の3点に留意しながら環境を構成することで、対象との関わりを深め、思考が促されるようにしていく。1点目は、子どもたちが、いつでもそばで観察できるようにしたり、生き物の様子を写真に撮ったり、絵に描いたりできるようにし、愛着をもって関わるように環境を構成していく。2点目は、ミクロな視点から、生き物の特徴をじっくりと観察できるように虫眼鏡を用意したり、観察の記録を比べることができるようにしたりすることで、分析的な思考を促すような環境を構成する。3点目は、すみかや餌を自分たちで工夫してお世話をしたり、生き物の様子について記録したり伝えたりするなどの活動をつくりだしたりできるように創造的な思考を促すような環境を構成していく。

全校研究とのかかわり「えらぶ・つかう」

## 2 学びの文脈に基づいた単元構想図

### 単元の目標

イモリを飼育する活動を通して、それらの育つ場所や、生き物としての特徴、成長の様子の変化に関心をもって働きかけることができ、イモリが自分と同じように生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみをもって大切にできるようにする。

### 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
イモリを飼育する活動を通して、動物に合った世話の仕方があることや、生命をもっていることや成長していることに気付いている。	イモリを飼育する活動を通して、それらの生き物の変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	イモリを飼育する活動を通して、それらの生き物への親しみを持ち、生き物を大切にしようとしている。

#### 復興教育との関連

- **いきる「①かけがえのない生命」**
  - ・ 身近な生き物が生命をもち、活動しているということを、お世話を通して実感し、生命を大切にできるようにする。
- **かかわる「⑨仲間とのつながり」**
  - ・ 友達とともに思いや願いを実現していくことで、かかわりの大切さに気付くようにする。

資質・能力の高まり

#### 他教科・領域等

- 理科 3年生「チョウをそだてよう」
  - ・ 生き物の成長の様子への気づき
- 理科 4年生「動物の体のつくりと運動」
  - ・ 動物の動きと体の仕組みへの気づき
- 理科 6年生「生き物のくらしと環境」
  - ・ 生き物にあった生育環境への気づき

幼児教育における学習経験  
 ・ 公園や園庭における昆虫採集及び飼育活動  
 ・ 園の花壇や畑におけるお花や野菜の栽培活動

1年 4・5月  
 「きれいにさいてねわたしのおはな」  
 ・ 植物に愛情をもって世話する力  
 ・ 植物の成長の様子を観察する力

本単元 1年 9月  
 なかよくなるうね  
 ～わたしのちいさなおともだち～  
 ・ 身近な生き物をお世話することを通して、それらの生き物への愛着や親しみをもつ。  
 ・ 身近な生き物が自分たちと同じように生命をもっていることに気づき、それらの生き物を大切にしようとする。

9・10月  
 「きれいにさいてねわたしのおはな」  
 ・ 身近な生き物への愛着  
 ・ 生命を尊重する態度  
 ・ 生命の連続性への気づき

2年 8月  
 「生き物なかよし大作せん」  
 ・ 生育環境に目を向けた継続的なお世話

#### 他教科・領域等

図工 1年 4月  
 「クレヨンとなかよし」  
 ・ クレヨンを使って絵を描く。

国語 1年 5月  
 「観察したことをまとめよう」  
 ・ 観察したことや、そこから考えたことを文にまとめる。

#### 見方・考え方を働かせるポイント

- **生き物への愛着をもたせる**
  - ・ 生き物の魅力に気付くことができるような学習活動や日常活動を行う。
- **自分と生き物との関わりの変化に気付かせる**
  - ・ 継続的に飼育カードを記録・蓄積させていく。その変化で、生き物と関わるができるようになってきている自らの成長に気付くことができるようにする。

#### 願い

- ・ 生き物とたくさん関わって楽しみたい。
- ・ 生き物のお世話をしっかりとできるようにになりたい。
- ・ 自分の力で問題を解決できるようにになりたい。

#### 教科の力

- ◎ 生き物と関わったり、お世話をしたりすることへの意欲
- 継続的に生き物をお世話する習慣
- ▲ ミクロな視点から観察する力
- ▲ 生き物の大きさや状態に気を付けながら大切にふれる力
- ▲ 比べて違うところや同じところを見付ける力
- ▲ 気付いたことを書いたり、演技したりして表現する力

子どもの実態

### 3 単元の指導及び評価の計画（全9時間）

時	○学習活動	◆研究の手立て	評 価		
			知識・技能	思・判・表	主体的に学習に取り組む態度
1 2	いもりさんこんにちは ○ 教師がイモリを捕まえてきた時の動画を見る。 ○ イモリと出会い、飼育への意欲をもつ。 ○ 飼育カードに記述する。	【手立て1】複線型 ◆ 生き物が苦手な子と得意な子でイモリの飼育活動を複線化し苦手な子が徐々に慣れるようにする。	イモリの育つ場所の様子に気付いている。		イモリと仲良くなりたい、大切に育てたいという意欲をもっている。
3 4	いもりさんのお世話をしよう ○ イモリのお世話の仕方について調べる。 ○ すみかや餌について調べ、お世話の仕方を考える。 ○ 日常生活におけるお世話の計画を立てる。 ○ 飼育カードに記述する。	【手立て2】環境構成 ◆ 生き物の飼育方法について調べられる資料や、生き物のすみかを整えるための材料を用意し、学習環境を構成する。	イモリの特徴、変化や成長の様子に気付いている。	イモリの住んでいた場所の様子や調べたことをもとに、お世話を工夫している。	イモリに心を寄せ、仲良くなろうと自ら進んで関わろうとしている。
5 6 7	いもりさんとなかよくなろう ○ イモリのお世話をする。 ○ 調べた事をもとにして、すみかを整えてあげたり、虫眼鏡をつかってじっくりと観察し絵を描いたりする。 ○ 生き物と触れ合ったり、関わったりする。 ○ 飼育カードに記述する。	【手立て2】環境構成 ◆ 生き物を詳しく観察するための道具（虫眼鏡等）を用意し、学習環境を構成する。	イモリも自分たちと同じように生きていることに気付いている。		
8 本時	おうちのひとに、いもりさんをしょうかいしよう ○ イモリのお世話をする。 ○ お家の人にイモリを紹介するための準備をする。 ○ グループごとに、自分たちがお世話をしているイモリの魅力を紹介する。 ○ 他のグループの発表を聞いて、気付いたことを発表する。	【手立て2】環境構成 ◆ 生き物の魅力を捉え、伝えることができる環境を構成する。 ◆ これまで記録してきた飼育カードを用いて、生き物の特徴や変化を捉える。		イモリの特徴や魅力について気付いたことを工夫して表現している。	イモリとの関わりが深まったことに自信をもち、これからも関わろうとしている。
9	いもりさんとなかよくなれたかな ○ これまでの学習を振り返り、生き物についてや、自分の関わり方について気付いたことをまとめる、全体で交流する。	【手立て2】環境構成 ◆ これまでの飼育活動を写真やカードを用いて振り返る、	イモリと親しみ、関わるができるようになったことに気付いている。	イモリと関わったことを振り返り、生き物への気付きや自分の成長を表現している。	

### Ⅲ 本時の指導

#### 1 目標

- イモリの特徴や魅力に気付き、表現することができる。

#### 2 評価規準

##### 【知識・技能】

- ・ イモリの特徴や魅力に気付くことができる。

##### 【思考・判断・表現】

- ・ イモリの特徴や魅力を工夫して表現することができる。

##### 【主体的に学習に取り組む態度】

- ・ イモリとの関わりが深まったことに気付き、これからもお世話を頑張ろうとしている。

<努力を要する状況の児童への手立て>

- ・ イモリの特徴を一緒に見つけたり、飼育カードを振り返ったりしながら、お家の人に紹介したいことへの表現を促す。

3 展開 (8/9時)

段階	学習活動 ○発問	時間	◆研究にかかわる手立て 予想される子どもの反応	・留意点 【評価】
導入	<p>1 飼っている生き物のお世話をする</p> <p>2 学習課題の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お家の人やイモリのことをどう思っているかを知る。</li> <li>教師が示した「しょうかいかあど」を見て、本時の学習活動への意欲をもつ。</li> </ul> <p>いもりさんの「みりよく」をおうちのひとにしょうかいしよう。</p>	5	<p>◆研究にかかわる手立て 予想される子どもの反応</p> <p>わたしが飼っているイモリちゃんの可愛さを、お家の人にも伝えたいな。</p> <p><b>手立て1 複線型の展開</b> ◆ 場や活動を選択し、「しょうかいかあど」をつくって生き物を紹介するための学習活動を行わせる。</p>	<p>・留意点 【評価】</p> <p>・お家の人やイモリの魅力を十分に知らないというアンケート結果から、子どもの「魅力を伝えたい」という思いや願いを持たせる。</p>
展開	<p>3 しょうかいかあど作りを行う 【問題の解決】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体で活動を見通し、それぞれの思いや願いを実現するための活動を行う。</li> </ul> <p>活動の見通しをもつ</p> <p>↓ ↓ ↓</p> <p>【分析的に考える学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生き物をじっくりと観察したり、触ったりする学習活動。</li> <li>これまでに記録した飼育カードを見たり、比べたりしながら生き物の特徴に気付く学習活動。</li> </ul> <p>【創造的に考える学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生き物について紹介する表現方法を自分たちで考える学習活動。</li> </ul> <p>【情報を発信する学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お世話してきた生き物の魅力を友達に伝えるために、文や絵に表す学習活動。</li> </ul> <p>↓ ↓ ↓</p>	15	<p>◆問題解決のための思考を促す環境構成</p> <p><b>かんさつきろくこおなあ</b> これまでの学習活動を通して蓄積してきた飼育カードや、交換ノートを見返し、特徴を捉えたり、成長の様子に気付いたりできるようにする。</p> <p><b>なかよしアイテムこおなあ</b> 虫眼鏡を使いじっくりと観察することで生き物の特徴を捉えさせたり、餌を食べさせてその行動の様子を捉えたりできるようにする。</p> <p><b>しょうかいかあど材料こおなあ</b> 情報を発信するにあたり、発表の材料となる写真や枠を自由に選択できるようにする。</p> <p><b>手立て1 複線からの収束</b> ◆ 伝えたいイモリの魅力について交流し、自分の表現に生かさせる。 ◆ 交流を生かして、再度活動を行わせる。</p>	<p>・「しょうかいかあど」には、イモリの得意技や、可愛い所などを書く。</p> <p><b>【知技】</b> 生き物の特徴や、成長の様子、魅力に気付くことができる。 【発言・記録】</p> <p><b>【思判表】</b> 飼育している生き物の特徴や魅力を工夫して表現することができる。 【記録・発表・身体表現】</p>
開	<p>4 作ったしょうかいかあどを発表する 【交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カードを使ったり、動きを付けたりしながら、自分が飼っているイモリの魅力についてお家の人に伝えたいことを発表する。</li> </ul> <p>5 しょうかいかあど作りを行う 【問題の解決】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達の発表を聞いて気が付いたことや、真似したい表現方法を自分の紹介カードに生かして活動を行う。</li> </ul>	10	<p>ぼくも～くんと同じように、イモリちゃんの○○について紹介したいな。</p>	<p>・子どもたちが気付いたことを板書に記録する。</p>
終末	<p>6 学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どうして、紹介カードにイモリの魅力をたくさん書くことができたのかを、これまでのお世話や、関わりをもとにして振り返る。</li> </ul>	5	<p>○○ちゃんのことについてこんなに詳しくなるくらい、たくさんお世話をしてきたんだな。</p>	<p><b>主体的態度</b> 生き物との関わりが深まったことに自信をもち、これからもお世話を頑張ろうとしている。【発言】</p>